修学旅行 金閣寺

令 和 6 年 度
杉並区立松溪中学校
SHOU KEI
松溪だより
5月号
http://www.suginami-school.ed.jp/shoukeichu/

教育目標
○自 学・自 立
○思いやり・感謝
○鍛　　錬

外国とのつながりを知ることが、国際理解の第一歩

校長　　小松　進一

―京都・奈良を訪れて―

５月１８日(土)～２０日(月)の日程で修学旅行（京都・奈良）に行きました。第１日目は、京都駅から各クラスバスに乗り込み嵐山方面に向かいました。天気は晴れ、気温３０℃近くまで上がり、真夏日のような暑さの中で渡月橋から天龍寺、竹林の小径などを班行動しました。その後は全員バスに戻り、クラス単位で金閣寺を見学しました。第２日目は、宿から班行動による京都市内の見学です。小雨の降る中でしたが、みんなで協力して行動できました。そして最終日は、お世話になった宿の方々とお別れし、バスで奈良の薬師寺に向かい法話を聞き、東大寺でのグループ行動、大阪の通天閣前の「新世界」での串カツランチを頂きました。とてもタイトな最終日でしたが、思い出に残る一日になったのではないでしょうか。３年生は、立派に行動できたと思います。

さて、今年の修学旅行では、外国人観光客の多さに驚きました。京都駅だけでなく、訪れる先々でたくさんの外国人が、日本の文化に触れていて、この国に住んでいる自分よりもよく調べて（知っている）訪問していました。各建造物や食、自然など、彼らにとっても大変魅力あるものだということです。第２日目の昼食時に入った麺屋では、お客さんの８割が外国人でしたが、お店の方が外国人の足下に「荷物をどうぞ」とかごを置くと、その外国人はとても驚き喜んでいました。こうしたおもてなしも日本の魅力なのかもしれません。

ところで、皆さんの行ってみたい外国はどこですか。観光に行きたい国、サッカーや野球の本場の国、音楽や演劇の勉強をしたい国、文学や経済を学びたい国など様々な理由があると思いますが、行きたい国があるのではないでしょうか。

犬養道子さんの『アメリカン・アメリカ』（文藝春秋）にこのようなお話があります。道子さんが若い頃（終戦からわずか３年目）、アメリカに留学しますが、結核になってしまいます。友人たちの好意で、ロサンゼルスの療養所までの片道切符を手に４泊５日の列車の旅に出るのですが、車掌に病気のことを話し、療養所について聞くと、ロサンゼルス駅からさらにバスに乗るほど遠いというのです。お金もない道子さんは困ってしまうのですが、明日ロサンゼルスに到着するという日、車内放送があり、療養所のあるモロンビアに臨時停車するとのこと。何と、車掌が道子さんのために鉄道省本部にかけあい臨時停車を認めてもらったのでした。ホームから担架で運ばれる道子さんに、停車中の列車の窓からたくさんのアメリカ人（戦争の相手国）が手を振り、名刺やお金を投げてくれたそうです。こういう話を知ると外国に対する親近感が高まります。道子さんは、このような経験を経て、難民支援活動を積極的に展開していきます。外国を知り、外国に感謝することで、外国のために行動する気持ちも高まるのではないでしょうか。

嵐山　天龍寺